

支部美術展

7人が全道へ出場 中嶋君死後の世界をイメージ

美術部は8月26～28日に旭川市民文化会館で行なわれた高文連上川支部美術展・研究大会で谷藍衣さん(化2)と古俣櫻君(建2)、中嶋未留人君(情1)が入選し、須田智吉君(化3)と天野勇志君(機3)、金井美咲弥さん(情1)、鈴木結人君(情1)が佳作に入った。7人は10月9～10日に札幌市で行なわれる全道大会に出場し、入選の3人の作品が出展される。

「とれたて」を描いた谷さんは「美術展では苦手な構図など、やつたことのないこと

に挑戦した」と語った。

描いた古俣君は「油絵具と筆、か不安だったが、多くの生徒から高く評価されて良かった」と話した。

新聞紙を使って油絵『ワンダーフォーゲル』を描き上げた。時間が足りなく8割程度の完成度で出品した。構想や下書きに時間をかけていたので、価が得られて良かった」と話した。また「他校の美術部員から自分の画風が評価されるから不安だったが、多くの生徒から高く評価されて良かった」と語った。

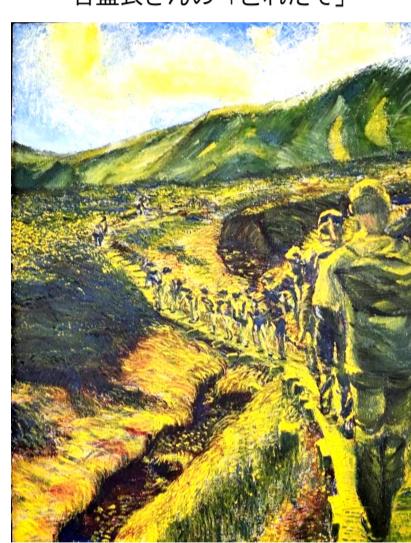
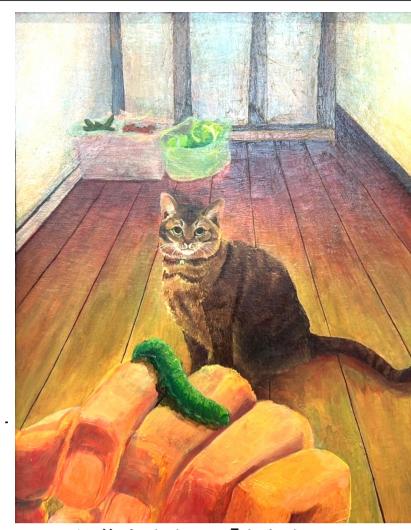
誰も知らない、誰も見たこと

はないが、ないからこそその自由な世界を描いた。色使いや

色の表現などでとても苦労し

た」と語った。

谷藍衣さんの「とれたて」



中嶋未留人君の「幻想」

特集後80年④

上官が兵隊にビンタ

弱兵は座して死を待つ

(第525号からの続き)

昭和20年12月29日私はペトロス

クの病院に収容された。危うく墓

地獄へ

に

いる。

翌年5月5日十数人一緒に退院

した。

兵隊に難癖をつけビンタの雨を降

らせた。

翌日から別室で皆から削つ

た。

何よりも入浴してシラミと別

れたのがうれしかった。所持品は

みんな取られたが少しも惜しくな

かった。

患者には20代の現役から30、40

代の補充兵までいたが、少し元気

勇ましく戦っても、運悪く捕虜に

連れてくるとき、戦闘した部隊を

かかった。

なれば帰れない日本がまだ続いて

くると腹が減って困った。

患者には20代の現役から30、40

代の補充兵までいたが、少し元気

勇ましく戦っても、運悪く捕虜に

連れてくるとき、戦闘した部隊を

かかった。

患者には20代の現役から30、40